

知ってほしい

国民健康保険の現状

—多額の医療費と少ない税負担—

医療費と保険税負担、日光市の現状は？

平成17年度における国保の1人当たりの医療費をみると、日光市は368、472円で、日光市は368、472円で、県内(33市町)で第1位となっています。最も少ない那須塩原市(286、951円)と比較すると約82、000円の差があります。つまり、日光市は那須塩原市よりも、医療費

が約3割も多くなっています。これに対して、日光市の1人当たりの保険税は73、775円で、県内で第30位となっています。第1位の那須塩原市(104、461円)と比較すると、約31、000円の差があり、保険税の負担が約3割も少ない状況にあります。

生活習慣を見直し、医療費の節約を！

日光市では、長期治療が必要な生活習慣病などの慢性疾患による医療費の支払い件数が非常に多くなっています。主な生活習慣病には、糖尿病や脳卒中、心臓病、高脂血症、高血圧が挙げられます。その多くは、偏った食生活や喫煙、過度の飲酒、運動不足といった生活習慣の積み重ねによって引き起こされます。普段の生活習慣を見直し、栄養バランスを考えた食生活や適度な運動、休養を取ることが心掛けましょう。

1人当たりの医療費(H17)

県内順位	1人当たりの医療費
1	日光市 368,472円
2	矢板市 356,061円
3	足利市 350,047円
4	宇都宮市 342,528円
5	河内町 340,421円
33	那須塩原市 286,951円
県平均	327,583円

1人当たりの保険税額(H17)

県内順位	1人当たりの保険税額
1	那須塩原市 104,461円
2	壬生町 102,278円
3	上三川町 99,362円
4	宇都宮市 97,272円
5	河内町 93,000円
30	日光市 73,775円
県平均	88,558円

日光の水は、キレイですか？

市内河川の水質状況報告



市では環境基本法で定められた環境基準に基づき、市内の河川や農業用水の水質を判定しています。今回は、昨年度実施した水質調査の結果を報告します。

市内の河川、農業用水の水質はおおむね良好

市では昨年度、27の河川と17の農業用水において水質調査を実施しました。環境基準にある項目のうち、調査を実施した項目は下表のとおりです。

◎BOD(生物化学的酸素要求量)の測定結果

河川については、環境基準を達成している割合(以下、達成率)は全体で88%と、高い数値でした。農業用水の達成率も全体で88%でしたが、いくつかの用水で生活雑排水が原因と思われる汚染が見受けられました。

◎大腸菌群数の測定結果

河川と農業用水の達成率はそれぞれ、全体で9%と4%でした。河川については、県内の平均達成率19.2%と比較しても低い数値となっています。その主な

んに納めていただく保険税の負担が少ないために、国保の運営が赤字になってしまっているのです。

平成17年度における日光市の国民健康保険(以下「国保」)の1人当たりの医療費は、県内で一番多くかかっています。一方、皆さんが納めていただく保険税の負担額は県平均よりも低額となっています。こうした状況が、国保の運営を圧迫しているのです。

❖ 医療保険制度が変わります ❖

平成20年4月から変更される医療費の負担割合などをお知らせします。
◎義務教育就学前のお子さんまで、自己負担割合の軽減(2割負担)の対象にお子さんが病院にかかった際、自己負担割合の軽減(2割負担)の対象年齢が、「3歳未満」から「義務教育就学(小学校入学)前」までに拡大されます。
◎70歳以上75歳未満の方(現役並みの所得者以外)の自己負担割合が2割に70歳以上75歳未満で、現役並みの所得者以外の方は、病院にかかった際の自己負担割合が原則1割から2割に変更されます。
◎70歳以上75歳未満の方(一般)の自己負担限度額が変更になります。医療費が高額になった場合に支払う自己負担には限度額がありますが、自己負担割合の変更に伴い、70歳以上75歳未満の方(一般)の自己負担限度額が次のとおり変わります。

平成20年3月31日まで		平成20年4月1日から	
外来(個人ごと)	外来+入院(世帯単位)	外来(個人ごと)	外来+入院(世帯単位)
12,000円	44,400円	24,600円	62,100円(44,400円※)

※過去12か月以内に外来+入院の自己負担限度額を超えた高額療養費の支給が4回以上あった場合、4回目以降の限度額になります。



くわしくは
市民課国保年金係
☎ 21-5110

水質調査を行った河川・農業用水および調査項目

調査対象	調査項目(環境基準項目)	
河川水	鬼怒川(万年橋上流)、鬼怒川(栗山地域内)5地点、大谷川(和の代、七里大橋上流、関の沢大橋上流)、大谷川支流11河川、小百川、砥川、古大谷川、赤堀川、田川、清水川、湯西川、湯川、男鹿川、渡良瀬川(渡良瀬橋付近、遠下橋付近)、黒川、行川、武子川、地獄川	◎生活環境項目 BOD、大腸菌群数、溶存酸素量、pH、SS(計5項目) ◎健康項目(有害物質) カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、ポリ塩化ビフェニール、ポリ塩化ピフェニール、ジクロロメタンなど(計26項目)
	七里五ヶ村用水、今市上段用水、大沢五ヶ村用水、瀬尾用水、芹沼新田用水、芹沼用水、塩野三ヶ村用水、小林用水、水無用水、板橋用水、大渡用水、清水川上流用水、嘉多蔵用水、大室用水、沢尻用水、高内用水、飛土沢用水	◎生活環境項目 BOD、大腸菌群数、溶存酸素量、pH、SS(計5項目) ◎健康項目(有害物質) カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、ヒ素、硝酸性窒素および亜硝酸性窒素(計6項目)

水生生物の生息状況からも水質を判定

市では水生生物の生息状況を調べ、河川の水質を判定しています。その対象となる水生生物を指標生物といいますが、指標生物の種類と数によって、水質の程度を「きれいな水」からⅣ(大変汚い水)までの4階級に分類しています。

昨年度は大谷川、赤堀川、古大谷川、清水川の計8か

私たちが一人一人の気配りが大切です

市内には数多くの清流が流れています。この貴重な

生命の源である水が汚れると、動植物の生育に悪影響を与え、私たちの生活さえも脅かされます。家庭から出た生活雑排水は公共下水道や合併処理浄化槽を利用すれば、きれいに生まれ変わります。もちろん、川にごみを捨てないことも大切です。私たちが一人一人の気配りが、きれいな日光の水を守るのです。

くわしくは 環境課環境係 ☎ 21-5152